

[010] 語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10260>

出版情報：語文研究. 10, 1960-05-30. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

編 集 後 記

一昨年春日政治先生が八十の御齡をお迎
えになりました折、慶祝の微意を致すた
めに、九大国文学会員の有志の者が、先生
御夫妻をお招きして小宴を催し、記念品
代を贈呈しましたことは、すでに御承知
のことと思います。ところが、その後、
先生は、それにさらに金額を加えて、「語
文研究」発行の一助に宛てるよう御寄附
頂きました。先生の御好意に対し、一同
感激、かつは恐縮いたしました次第です。さ
つそく幹事の間で相談しまして有難く御
好意にお繰りし、先生のライフ・ワーク
とされる訓点研究の特集号を発行するこ
とに決めました。そして、今回は特に会
員外から、現在その方面の第~~五~~^一線の權威
として令名の高い方々に御執筆をお願い
しましたところ、いずれも、われわれの

意に御賛同いただき、御快諾下さいまし
た。そして、その結果は、すなわち、遠
藤氏は新資料「和泉往来」を紹介されて
作者・書名・国語資料としての価値など
を明らかにされ、大坪氏は平安朝初期の
「ダニ」と「スラ」、中田氏は「トキ」と
「トキニ」の区別について各々精細な論
究を加えられ、築島氏も、訓点語におけ
る係助詞の諸機能について、大部の力作
を寄せていただきました。又、会員から
は春日先生門下の平井氏は遊仙窟につい
て造詣を傾けられ、御令息の春日和男氏
も今昔物語集における訓点語の性格に就
いて書いていただきました。これらの内
容はこの種の学会誌としては、嘗て見な
い豪華なものといふ自負している次第です。
御執筆の各氏が、学年末御多用の中を、
またとくに、遠藤氏は御渡欧の準備に御
忙しく築島氏は御病後と何うなど種々の
御差障りを押しして、それぞれ、みごとに

力作をお寄せ頂いたことにつきましては
ただただ心から御礼申し上げるばかりで
あります。

春日先生には近來いよいよ御壯健で、
九大国文学会の後進の御指導を頂き、さ
らに広くわが国語学界、全国学会のため
貢献されておられます事は、まことに御
同慶に堪えません。先生には、この上と
も御加餐いただきますして、わたくしども
後進を御指導いただき、学界の進歩と向
上のため御尽力いただきますようお願い
い申し上げます。また、ついでながら、
高木市之助先生もお変わりなくますますお
元気に、小島吉雄先生は昨秋学術会議全
国区会議員に御当選なさいましたことも
併せて御同慶に堪えません。

(編集担当者 福田・今井)